

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第1回川越市男女共同参画審議会
開催日時	令和5年7月26日（水） 午後2時00分～午後3時10分
開催場所	市役所 4A会議室
議長	会長 大橋 稔
出席者	（会長）大橋 稔 （委員）猪野晴代 齊藤克子 山口日出美 遠山知子 橋村祥子 小林敦子 櫻井理恵 高橋健治 矢定夕有子 村川はつ枝 荒木浩子 平松賢治（12人） （市民部長）市ノ川
欠席者	（副会長）大森三起子 （委員） 高橋 巧
傍聴人	1名
事務局職員 職・氏名	課長 石井みどり 副課長 平岩美香 主査 山田篤 主任 藤澤翔太
会議次第	1. 開 会 2. 部長あいさつ 3. 議 題 （1）正・副会長の選出 （2）各種審議会等における女性委員の登用状況について 4. 報 告 5. 閉 会
配布資料	次第 委員名簿 資料1 各種審議会等における女性委員の登用状況一覧表 資料2 川越市における女性管理職の割合一覧表 川越市パートナーシップ宣誓制度の拡充について 第1回川越市男女共同参画庁内会議（書面会議）で出された意見

	議 事 の 経 過
発言者	議題・発言内容・決定事項
	1. 開 会 傍聴希望者1名 2. 部長あいさつ

	3. 議 題 (1) 会長・副会長の選出 指名推薦により、会長に大橋委員、副会長に大森委員を互選。
事務局	(2) 各種審議会等における女性委員の登用状況について 資料 1 に基づいて説明
委員	単純な年度の比較ができない理由として、その審議会の数が変わっていること、全体の傾向としては、目標に掲げたものに十分かどうかわからないけれども近づいていると理解した。 地域差や行政規模の差があると思うが、他市と比較して、どのような状況で進捗しているのか。
事務局	埼玉県内の市町村の平均が 28.9%、埼玉県の結果が 40.2%となっている。
委員	地域に密着した近い方が、女性の比率を上げやすいと思うところもあるが、大きい組織の方がこういう改革はしやすいものなのか。
事務局	埼玉県では、審議会等における委員を委嘱し、または任命する場合は、積極的格差是正措置を講ずることにより、できる限り男女の均衡を図るように取り組んでいる。具体的には審議会等の女性の委員の割合が、県の目標値 42%に満たないで委員を任命しようとする部長等は、委員の任命を行おうとする日の 3 ヶ月前までに、指定様式により、県民生活部長に協議しなければならないとしている。合わせて目標達成時期を掲げた女性の登用計画を作成して提出することを求めている。
委員	庁内でのコンセンサスを形成するなど、すぐには難しいかもしれないが、県が率先してやっているのであれば、川越市でもぜひ積極的に進めていただきたい。
委員	登用しやすいところと、登用しにくいところがあると思う。登用しやすいところで見ると、趨勢としては、女性の登用が進んでいると理解していいのか。それぞれの委員会等で背景が違う中でどう判断すればいいのかわからない。例えば、進めやすいと思われる審議会等では、どのように推移しているのかなど、そういう比較材料があった方が、判断しやすいと思うが、何か情報を分析しているところがあれば教え

	ていただきたい。
事務局	女性を登用しやすいところは、その専門分野に女性が多い分野であり、団体推薦にしても女性をお願いしやすく、数字が比較的上がりやすいと考えている。
委員	それは単年度のそのときに誰がいるかによって、結果は当然変わってくるという受けとめでよいか。
事務局	単年度というよりも、それぞれの審議会のテーマに沿った分野に、女性の登用の比率が多い部門のところでは、増えやすいと考えている。
委員	進みやすいところは、順調に上がってきていると受けとめてよいか。
事務局	個別の分析まではしていないが、前回の審議会でご指摘いただき、2ページ以降の表について前年度比を載せている。この部分で去年との比較ができる。長いスパンでの比較はしていないため、はっきりとは言えないが、女性が少ないところは、やはり女性が育ってない、女性が入りにくい分野であるというのは、はっきりしていると考えている。
委員	単年で見るのではなく、そのときの特徴をしっかりと掴んでいこうということで見ればよいと理解した。
議長	全体として、自分が委員を始めた頃よりは、女性の委員の登用についての雰囲気は醸成されていると感じている。 ただ、委嘱できる人がいない分野、なかなか見つからない分野は、ゼロの状況が続いているのが現実であると思う。
委員	この男女別は、出生時の性か。戸籍上の性か。
事務局	そのとおり。
委員	今、性自認の問題はすごく取り沙汰されている。女性の比率を上げようと言いつつも、一方で、どちらの性にも属さない人も尊重していかなければならないということで、非常に難しいと感じている。 今すぐということではないが、将来的にはどのようにするのか考えていかなければならない問題だと思った。

議長	今の件に関しては、基本計画の目標値にも関わるため、その基本計画を立てる段階での目標の設定の仕方を検討する必要がある。事務局は、そういった問題を含めうるためにはどのような目標設置ができるか検討していくとよい。
事務局	令和８年度から新しい計画になるため、このメンバーで策定の検討をしていただくことになる。
議長	計画が始まった頃の、男女という分け方で女性の権利を考える時代から少しずつ変化していることも踏まえ、目標の立て方などをしっかり検討してほしい。
事務局	４ 報告について 「川越市パートナーシップ宣誓制度の拡充について」に基づき説明
委員	ファミリーシップ制度は、そのカップルと共に暮らす子や親など、ファミリーも含めて宣誓する大変いい制度だと思う。例えば、宣誓しているカップルの子が自立して別居した場合には解消されるのか。
事務局	別居していても家族には変わりないため、同居を条件にしないことなど他市町村を参考にしながら検討を進めている。
委員	ぜひ、より良いものになるように期待している。
議長	自治体間の連携について、具体的に連携する地域はどこか。
事務局	基本的には県内で考えており、可能なであれば、県内の大きなエリアで連携したいと考えている。
委員	市町村単独よりも、埼玉県が調整して進める方が良いと感じるが、川越市で要望しているか。
事務局	要望し、相談している。
議長	県に制度の導入を働きかけるというのも必要と思うがいかがか。
事務局	県は、性的少数者の方の生きづらさについては全面的にバックアップして、周知、意識啓発をしていくが、パートナーシップ宣誓制度は、

	婚姻に準ずる制度であるため、市町村単位で受けるべきとの考えである。県では、パートナーシップ宣誓制度の創設はまずない。
議長	ただ、各市町村の制度ということを前提として、県でもそれに代わる施策があると良い。いろいろな取り組みをしていただきたい。
委員	県内の制度を導入している市町村数は。
事務局	県内 63 市町村のうち、54、5 ぐらいの市町村が導入している。
事務局	4 報告について 意識調査の進捗状況について説明（資料なし）
委員	回答数は想定から上回っているのか下回っているのかどうか。
事務局	前回 5 年前の調査では、同じ件数を発送し、返答数が 1,210 件だったので前回を上回っている。約 42%の返答になるが、想定では 40%ぐらいを想定していたので、若干上回っている。
議長	参考として配布された、「第 1 回川越市男女共同参画庁内会議についての意見」のなかで「大事なのはわかるが数値目標ばかりを追っているのはよくない」という委員の意見がある。この意見には、二つの側面があって、理解しているふりをして邪魔する人たちの言葉でもある。事務局が非常に丁寧な返答をしていて良かったと思うが、こういう意見が推進を阻害しているということを啓発してほしい。 また、特に庁内プロジェクトの女性比率が少ないことについての意見として、充て職になっているので仕方ないという意見がたくさん出ていたが、例えばオブザーバー的に女性が参加できるようにするなど、審議会は難しくても庁内プロジェクトであればやり方によって、改善できる可能性があるかと思う。
委員	資料 2 の川越市における女性管理職の割合一覧表で、今年度は女性の部長が 4 名ということだが、どの部なのか伺いたい。
事務局	都市計画部長、文化スポーツ部長、福祉部長、学校教育部長の 4 名である。
委員	女性の登用について、医師会でも今 300 名弱の会員がいて、女性の

	医師が 60 名以上いるが、今まで理事に 1 人も入らないという事実があった。医者仕事をしながら、医師会活動もするというのがなかなか大変ではあるが、やはり女性が入って物事を進めた方がいい場面というのがすごく多いということもあり、女性の理事に去年から 1 人入ってもらった。医師会も今、改革中である。
委員	先ほどの男女共同参画庁内会議についての意見というところで、ファミリーシップ制度の導入の進捗状況を都度教えていただきたいとあるが、どのように報告をするのか。
事務局	性的少数者に係る施策に関する検討委員会を開催し、ファミリーシップの導入や自治体間連携などの検討が行われたら、その都度、その報告をこの意見をもらった所管課に伝える。
委員	教員の世界も 6 割ぐらいが女性だが、管理職は 3 割にも満たない。固定的な役割分担がまだまだ拭いきれない部分がある。 学校の現場をみると、教職員は男性でも子育てしているし、今までよりも男女の意識は変わってきていると思う。教育の世界で子どもたちに自分らしくていいのだというところをしっかりと指導していかなければならない。若い世代はどんどん柔軟になっており、それを牽引する私達がしっかり意識改革しなくてはならないと感じている。
委員	本日の資料から、徐々にではあるが、女性が委員になっている数が少しずつ増えていると思った。分野によっては難しいところもあるのかもしれないが、少しずつ改善していけたらいいと思う。
委員	都市計画部長が女性ということを知り、大変嬉しい驚きだった。健康福祉や教育では、登用率が上がっていきやすいけれども、依然として、土木関係はなかなか上に上がれないという分厚い壁があったと思うが、変わってきていると感じて、今日は嬉しい発見があった。
委員	私は、30 人に満たない会社で代表している。男性育児休暇を取った者もいるし、また現在産休で休んでいる方もいる。 その一方で、中小企業というレベルだと、1 人の方がお休みされたときのフォローを誰がやるのかというときに、同様の仕事ができる方を雇うのが非常に厳しい状態であることも確かである。これに対する残業などの部分に対して、私達経営者がどのようにフォローして、あるいは健康も含めて見てあげられるのかというところが非常に大きな

	問題。人の力で会社が回っているので、この課題とどう向き合うかは経営者として考えていかなければならないと思っている。
委員	自治会連合会の代表として参加しているが、残念ながら川越の自治会は283あるが、女性の会長は10名もない。女性の自治会長を育てていきたいと思っているが、ボランティア的な仕事が多く、ほとんど断られる。どういう形で自治会の役員に女性を登用していくかまた参画してもらうかというのが我々としても悩んでいるところなので、皆様の意見等を聞きながら、女性の自治会長になってもらうように進めていきたい。
委員	私は川越市の地域会議の会長連絡会議の代表として参加している。民間団体に委員の推薦を依頼すると、男性の団体代表者が推薦される。必ず代表者が出なければいけないという風習をもっと柔軟に、いろいろな人がいろんなところに出て意見が出せるようにしていけばいい。 別の民間団体で接する子ども達は、違いがあっても受け入れるという感覚をわかってくれている。子どものそういう部分に触れる機会は、すごく大事なのではないかと感じた。
委員	女性団体連絡協議会から来ており、市の審議会へ女性委員を多く推薦している。今回、市議会議員の女性が増えたということはすごくいいことだと思う。川越市は男社会のような感じが少しあるが、女性の意見も取り入れて、どんどん発信していただきたい。
委員	私が自治会と関わるようになって長くなるが、だいぶ変わってきたという印象がある。最初の頃は世にも珍しい女性自治会長といわれていたが、今は女性とか男性とかではなくて、能力で選ばれていると、言い切っている。これからも、この場で意見をいろいろと言わせていただき、活動に参画させていただくことを嬉しく思っている。
委員	自分は、産業別労働組合の職員をやっている。子育て中。自分でも何かまだジェンダーなどの感覚が養われてない部分もあるのでこの場を通じていろいろ学びたいと思っている。 5. 閉 会 次回は令和5年11月頃開催する予定